

3回目の呪い

第二稿

井上裕貴

2025/03/13

△登場人物▽

拓実(21) …主人公の男性

里奈(22) …女性

大吾(21) …拓実の友人

菜摘(22) …里奈の友人

○横浜の街・海岸沿いの道（夜）

遠くでビル街が光っている、海岸沿いの散歩道。

拓実（21）と里奈（22）が2人で歩いている。

手はつないでいない。

拓実_N「今回で決める…決めなきゃ」

里奈「今日のディナーのとき、めちゃくちゃ美味しかったね」

拓実、緊張した顔で。

拓実「あ、うん。そうだね」

拓実_N「決めなければ!」

○居酒屋・店内（回想・夜）

雑多な店内。

拓実と友人の大吾（21）が飲みながら会話している。

大吾「で、次どこいくの？」

拓実「横浜」

大吾「おま、アツいなそれ。それで何回目なんだっけ」

拓実「3回目っすね」

大吾「絶対いける、頑張れ」

拓実「いやーまじ？早い気が」

大吾「（遮って）何言ってるの。3回目あたりで行かないと」

他の男なんて腐るほどいるんだから」

拓実「でもなー」

大吾「何がそんなに心配なのよ」

拓実「もうちよつと人となりを知ってから判断したいじゃん？」

大吾、首を振って呆れた顔で。

大吾「呆れたよ。だから2年もマッチングアプリしてるのに彼

女できないんだよ。何回言わせんだ」

拓実「でも」

大吾 「なににせよ！絶対告白して来い。またチャンス逃すぞ？」

○横浜の街・海岸沿い（夜）

歩いている人。

拓実M 「とは言われたものの」

○駅・ホーム（夜）

電車を待つて座っている人。

里奈 「拓実さん、電車どっちですか？」

拓実M 「全然」

○電車・車内（夜）

車内で吊り革に捕まっている人。

里奈 「あれ、拓実さん帰りの電車、逆じゃないですか？」

拓実M 「決心が」

○駅・改札前（夜）

駅構内。

出口前の改札口。

拓実M 「つかずで」

里奈、拓実に手を振って。

里奈 「じゃあ」

拓実M 「相手の最寄りまで来てしまった…」

拓実 「あ、里奈さん！」

里奈 「ん？」

拓実 「えっと、その…」

しばらくの沈黙。

拓実 「えー、っ、つき」

里奈 「ごめんなさか」

拓実 「え」

里奈、慌てて訂正するように。

里奈 「あ、でも、これはそういう意味じゃなくて」

里奈、少し躊躇って控えめに。

里奈 「私たち、今回で3回目じゃないですか。一緒に出かけるの」

○居酒屋・店内（回想・夜）

里奈と友人の菜摘（22）が会話している。

菜摘 「3回目？」

里奈 「うん」

菜摘 「あんたそれ、告白されるやつじゃーん？」

里奈 「いやーでも、まだがいいなー」

菜摘 「なんで！恋愛なんて早い者勝ちだよー？」

里奈 「もつとゆつくり判断したいんだよねえ」

菜摘 「そんな呑気なこと言ってるよ、いい男とられてくよ？夕イパ重視でいこう」

里奈 「恋愛にタイパとかないでしょ」

菜摘 「いや、あるね」

菜摘、持っていたグラスを飲み干して。

菜摘 「とにかく。3回目でしょ？頑張りなよ。（時計を見たのち、店員に）すみません、ラストオーダーまだいけますか？」

浮かない顔の里奈。

○駅・改札前（夜）

駅構内、改札前の拓実と里奈。

里奈 「なんか、3回目だから無理に告白しようとしてるのかなって、思ったので」

拓実、ハッとする。

里奈 「すみません、せっかく何か言おうとしたのに、遮ってしまっ」

拓実 「…」

里奈 「でも、拓実さんのこと嫌いじゃないので、また会って判断したいなって思うんです。だから、今はごめんなさい」

拓実 「こちらこそ、ごめんなさい」

里奈 「え？」

拓実 「3回目だから、焦って告白しないと思って、思っちゃってました」

里奈 「…」

拓実 「本音は、もう少し里奈さんを知ってからがいいと、思っていました。でも、3回目がいいって、よく言われてるじゃないですか。だから、意思とは関係なく、しようとしてちゃってました。ごめんなさい」

拓実、里奈に向かって頭を下げる。

拓実 「だから…」

里奈 「？」

拓実 「だから…あと何回か、会ってくれませんか？」

里奈、笑顔で。

里奈 「ぜひ、何回でも。よろしくお願いします」

拓実、ホッとした笑顔になって。

拓実 「じゃあ、また。あとで連絡します」

里奈 「はい。また」

改札を抜け、歩いていく里奈の後ろ姿。

駅のホームに戻っていく拓実。

拓実と里奈、肩の荷が降りたような笑みを浮かべ、互いの道を歩いていく。

(終)